

▲青空の下で元気にボールを追いかける子どもたち

未来へキックオフ！

白石サッカー協会創立25周年記念事業

10月18日、白石川サッカー公園で「白石サッカー協会創立25周年記念事業」が開催されました。この日は、サッカー未経験の子どもも参加できるサッカー遊びフェスやじゃんけん大会のほか、年代別に分かれて交流戦も実施。白石サッカー協会の佐藤会長は「サッカー未経験の子どもたちもイベントに参加してくれてうれしい。今後もサッカーに触れ合える場を提供していきたい」と述べていました。



▲協力への感謝を込めて代表児童からメッセージを手渡しました

感謝の気持ちを届けました

深谷小学校リサイクル活動

10月27日、深谷小学校の児童７人が古賀オール株式会社を訪れ、廃品回収への協力に感謝のメッセージを届けました。同校では年２回、段ボールなどの廃品を回収し、資源として売却することでPTA活動の資金に役立てています。同社は一昨年から、回収した段ボールなどを学校に持ち込み、この活動に協力しています。







1 _会場を盛り上げた福祉団体の和太鼓演奏　2 _笑顔があふれた新米すくいどり
3 _白石市観光大使３期目となる遠藤哲哉選手（右から２番目）も餅まきに参加！

実りの秋の風物詩

第46回白石市農業祭・白石市福祉まつり2026

11月7日・8日の両日、本市の秋の風物詩、農業祭と福祉まつりがホワイトキューブで同時開催されました。

農業祭では、新米・新鮮野菜・果物などの地場産品や白石産仙台牛の特別販売、昨年6年ぶりに復活した白石産ササニシキ新米すくいどりや紅白餅まき、また、毎年大人気の米俵相撲、市内小学生によるミルク川柳、ころ柿づくり体験、姉妹都市の登別市・海老名市物産展などが行われました。

福祉まつりでは、ステージ発表や車いす体験、作品展示、手芸作品・手作りお菓子・苗花の販売などが行われ、会場はイベントを楽しむ多くの来場者の笑顔と活気に包まれていました。

市民文芸

応募方法　１人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内（未発表のものに限る）。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0292　白石市大手町１-１白石市総務課へ。**はがき一枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。**
毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。（✉koho@city.shiroishi.miyagi.jp）

歌壇　岩崎聰之介選

図書館の本手にとるに布の表紙青いろ渋き紬を　村上八重子
撫づも
草刈りを終えし空き地のそこここに惜しとのお　佐藤啓子
討らい彼岸花映ゆ
足も弱りごろ寝しがちの老いわれよ怠けまいぞ　齋藤巌
とエアロバイク漕ぐ
コンバイン音高らかに刈り進むこだわり米の三　星昭男
角旗揺り
病みあがり一人臥すわれに日の光ありがたき鼓　小室アイ子
ものみなも照り
ありのまま生きて米寿の祝の膳感謝の涙おもは　菊地せつ子
ず出づる
朝夕とかばねやみ我に発破かけ片足立ちに踵落　寺崎悦子
としす
からからと音立て庭の柿の葉が実少し残し地を　阿部かつみ
駆けていく
ていねいに昔乍らに挨拶し学童達はかえりを　後藤今朝雄
急ぐ
オニヤンマわれの頭をすれすれに未だまだ元気　鎌田ねい子
そう寒い朝を飛ぶ

評　一首目、米沢織の歌集でもあろうか、絹地の風合いにしびれている。本好きでないと装丁などへは目がいかぬもの。
二首目、地域の皆さんでの除草、花が残されたのだ。其のご配慮を印象的に詠む。
三首目、九十越えの作者とエアロバイクとの取り合わせは刺激的。四句目がいい。

俳壇　山家弘子選

湯の町に葉つき大根並ぶ市　平間幸恵
荒れし畑野菊の花の咲きみだれ　菊地せつ子
秋晴れや刈り入れ急ぐ農夫達　佐藤隆志
娘に持たす年に一度の栗おこわ　末吉アツ子
清々し金木犀の香る庭　菊川いつ子
雨上り茜に染まる翳雲　村上八重子
金木犀山門招く常林寺　星明
秋彼岸墓に造花のそこかしこ　佐藤啓子
柿食えば百薬の長医者いらず　木村芳香
秋空や孫の打席を双眼鏡　佐川鉄輪

評　一句目、蔵王高原の大根はことさら美味しく遠くから車で来てどっさり買って行く。隣近所に分けて上げると大変喜んでくれる。
二句目、高齢化が進み荒れた田畑を見るのは忍びない。我が畑も雑草と野菊が咲き乱れ心が痛む。全てのものは移り変わりゆく。
三句目、今年は一カ月以上も雨が降り続いた。やっと雨が上り稲を刈ることが出来た。

柳壇　四竈英夫選

何事もお金がからむことばかり　佐藤啓子
村祭りヤアヤ暫くお隣さん　木村芳香
コメ余り需要バランス難しい　菊川いつ子
スーパーの特売品を梯子する　末吉アツ子
赤トンボ追うて走った子今老女　小室アイ子
敬老日過疎の野の花祝いくれ　菊地せつ子
河川敷花火上がるや運動会　星明
朝露に顔をぬらして散歩道　遠藤松雄
ふと思うシワと歳だけ待ったなし　志村かつい
初物の栗ご飯食べご満悦　村上八重子

評　一句目、右を向いても左を見ても所詮この世は金次第。世知辛い世の中。「一円を笑う者は一円に泣く」と故事は教える。
二句目、年に一度の夏祭り。普段会わないお隣さんとも会えた。日本人はお祭りが好き。コミュニケーションの原点はお祭りかも？
三句目、コメ不足から一転コメ余り。皮肉な現実に翻弄される農家。何を信じていいのか。くるくる変わる猫の目農政と揶揄され時期も。

フレッシュマーケット

Shiroishi Market

～地元農産物の魅力を発信～

地元の農産物や直売所などの魅力をお届けします。
～白石市農産物直売所連絡協議会は、地産地消を推進！～

市内の農産物直売所情報▶



▲オレンジ色の鮮やかな「柿のれん」

寒い季節を彩る「干し柿」

本市では、古くから柿が栽培され、ころ柿などの干し柿づくりが行われてきました。干し柿づくりでは、皮をむいたあと軸枝に縄を結んでつるし、乾燥して渋みを抜きます。干し柿が並ぶオレンジ色の鮮やかな「柿のれん」は絶景で、また、柿はビタミンA・C、カロテン、カリウムなどが豊富に含まれ、「柿が赤くなると医者が青くなる」ということわざがあるほど栄養価の高い果物です。

本市産の干し柿は、馬牛沼産直センターやおもしろいし市場などで販売を予定しています。ぜひご賞味ください。

問農林課　☎22-1253